

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	平成30年6月29日
【事業年度】	第32期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
【会社名】	会津鉄道株式会社
【英訳名】	Aizu Railway Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大石 直
【本店の所在の場所】	福島県会津若松市材木町一丁目3番20号
【電話番号】	0242-28-5885
【事務連絡者氏名】	総務企画部 部長 佐藤 喜市
【最寄りの連絡場所】	福島県会津若松市材木町一丁目3番20号
【電話番号】	0242-28-5885
【事務連絡者氏名】	総務企画部 部長 佐藤 喜市
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第28期	第29期	第30期	第31期	第32期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	431,329	415,552	410,062	410,486	472,699
経常損失 (千円)	209,420	199,067	198,619	239,401	244,155
当期純利益又は当期純損失 () (千円)	12,184	12,191	18,213	17,498	30,348
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
発行済株式総数 (株)	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
純資産額 (千円)	267,539	255,348	237,134	219,635	189,287
総資産額 (千円)	478,482	465,637	614,116	611,022	559,822
1株当たり純資産額 (円)	8,917.97	8,511.60	7,904.49	7,321.19	6,309.58
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 () (円)	406.15	406.37	607.10	583.29	1,011.60
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	55.9	54.8	38.6	35.9	33.8
自己資本利益率 (%)	4.55	4.77	7.68	7.96	16.03
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	164,591	105,990	263,377	90,386	175,805
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	150,805	78,818	241,121	229,121	187,923
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	49,925	77,097	99,354	50,619	38,502
従業員数 (人)	58	60	66	66	67
〔外、平均臨時雇用人員〕	〔14〕	〔14〕	〔11〕	〔9〕	〔7〕

(注) 1. 当社は、連結財務諸表を作成していないので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載をしていない。

2【沿革】

昭和59年6月	第二次特定地方交通線に承認
昭和60年6月	第一回会津線特定交通線対策協議会会議開催
昭和61年3月	第四回会津線特定交通線対策協議会会議開催(会津線の第3セクター化の方向で合意)
昭和61年11月	会津鉄道株式会社設立
昭和62年5月	運輸大臣へ第一種鉄道事業免許申請
昭和62年5月	運輸大臣から第一種鉄道事業免許取得
昭和62年7月	新生会津線の営業開始
平成2年10月	会津田島～会津高原間一部電化開業

3【事業の内容】

当社は地方鉄道による単一事業の旅客運輸業を行っている。

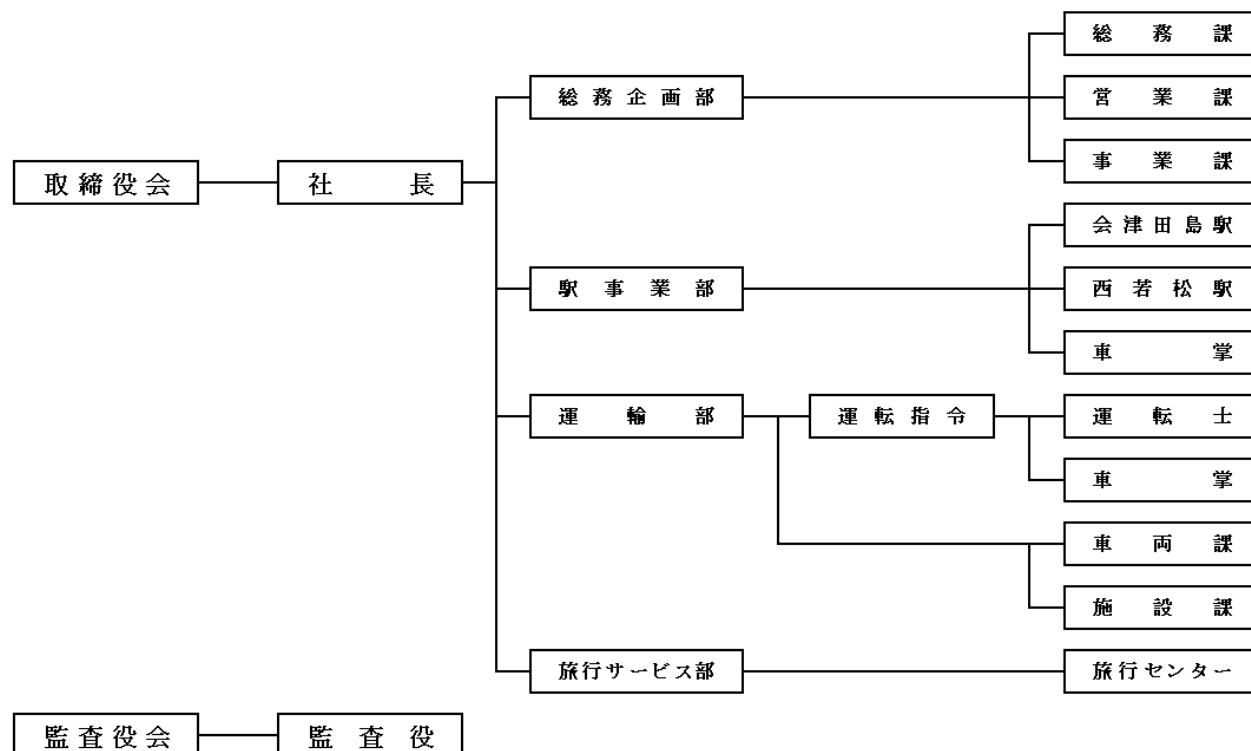
なお、旅客運輸営業に付帯する旅行業、広告業を行っている。

また、駅構内において、売店による飲食料品及びオリジナルグッズ等の販売も行っている。

路線については、営業区間は会津若松市（西若松）を起点とし南会津町（会津高原尾瀬口）を終点とする57.4kmである。

（事業系統図）

当社は、事業系統別に分かれていないので、下記のとおり会社の組織図を記載する。



4【関係会社の状況】

該当事項なし

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
67〔7〕	46.3	14.9	3,671,186

（注）1. 従業員は、就業人員数（社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載している。

2. 臨時従業員は、パートタイマーである。

3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでいる。

(2) 労働組合の状況

平成5年3月11日、会津鉄道労働組合が設立され、上部団体の私鉄総連福島県協議会、福島県労協センター、会津若松地区労センターに加盟している。平成30年3月31日現在の組合員数は40名である。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はない。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当会計年度末現在において、当社が判断したものである。

(1) 経営方針・経営戦略等

会社の経営の基本方針

当社は、福島県と会津地方17市町村ならびに団体、企業、個人の出資によって設立された第3セクター方式の会社である。「安全・確実・親切」を社是としており、鉄道事業の基本である「安全・安定輸送の確保」は最優先事項であり、全社一丸となって取り組むとともに、「地域に貢献し、収支改善し続ける会社」をチャレンジテーマと定めた経営展開を図っている。

中長期的な会社の経営戦略

継続可能な経営を行うためには、公的支援を含めた安定した収入の確保ができる企業体質の確立が経営の最重要課題と認識しており、以下の施策により業績の向上に邁進していく所存である。

ア．安全・安定輸送の確保

鉄道事業の基本である、「安全・安定輸送の確保」は、最優先事項であり、全社一丸となって取り組んでいる。

特に安全の基盤となる老朽設備の更新は不可欠であり計画的に実施し安全性の向上を目指している。

イ．鉄道事業による収入の確保

少子化、人口減に伴い、地域生活輸送での輸送人員の増加が難しいことから、当社を取り巻く環境を的確に捉えた多彩かつ効果的な営業活動を展開し、観光輸送と首都圏直結輸送を安全・確実に行うことで人口減を上回る収入を確保する。

ウ．旅行業・販売業による増収対策

収益増が難しい鉄道事業の補完として、旅行業や販売業に積極的に取り組み、鉄道利用客及び収益の増加を図っている。

エ．経費削減対策

事業の実施に当たっては、常に事業手法の改善を図り、経費の削減に努める。

オ．会社・社員の意識改革

「地域に貢献し、収支改善し続ける会社」を目指して、会社も社員も変化し続けるために企業変革活動（やる鉄！活動）に取り組んでいる。

(2) 目標とする経営指標

当社は、開業以来経常損失を計上しており、継続させていくことを経営の目標としている。

経営指標としては、地域の公共交通機関として地域住民の足となり、安全・安定輸送に加え、現金の動きを把握するキャッシュ・フロー経営を重視していくものである。

(3) 経営環境および対処すべき課題

今後の地方鉄道を取り巻く環境を展望すると、設備の老朽化、少子化による沿線人口の減少、風評被害の影響など厳しい状況が続いている。

引続き、風評被害払拭のためのPR活動やイベントの開催、旅行エージェントの訪問など正確な情報の発信を行うほか、昨年度、会津田島駅まで直通運転を開始した東武鉄道新型特急「リバティ会津」を活用した首都圏からの誘客を行うとともに、日光を訪れる観光客を会津地域へ誘導するための取り組みを行い収入の確保を図ることはもとより、経費の節減を図るため、よりいっそうの効率化を目指し、地方の公共交通機関としての使命を果たすよう今後とも努力していく所存である。

2【事業等のリスク】

当社の事業展開について影響を及ぼす可能性のあるリスクは以下のようなものがある。なお、文中に関する事項は、当事業年度末（平成30年3月31日）現在において判断したものである。

(1) 鉄道利用者の減少

当社は、開業以来、地域の公共交通機関として地域住民の足となり、安全・安定運行に努めてきたが、当社を取巻く経営環境は、少子高齢化に伴う学生の減少及びマイカーの普及等の要素による鉄道利用者が減少傾向にある。今後この傾向が続くことは、当社の業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性がある。更に福島第1原子力発電所の事故は、放射能汚染による風評被害を引き起こし、今だ収束の見通しがなく観光客の減少等により減収を増幅させる大きな要因となり経営環境を厳しくさせている。

(2) 財務状況（老朽鉄道施設の承継）

当社は、昭和62年に日本国有鉄道改革法等施行法に基づき、東日本旅客鉄道㈱から鉄道施設等を承継し営業を開始している。しかし、その鉄道施設は、老朽施設が多く、維持メンテナンスに多額のコストが必要とされている。今後の施設維持について、大規模な経費が発生することも予想され、当社の業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性が存在している。

(3) 法的規制

当社は、事業展開をするにあたり、国土交通大臣（旧運輸大臣）から第一種鉄道事業者としての認可を受け事業展開をしている。その関係から鉄道事業法等による規制を受けおり、その規制を遵守しながら事業展開をすることは、反面コスト増加に繋がる一面もあり、当社の業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性がある。

(4) 自然災害等

地震・台風等の自然災害やテロ等に対して各種の対策を講じているが、これらを防ぐことが出来ない場合、鉄道施設に大きな被害を受け、当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性がある。

(5) 公的支援

当社は、開業以来経常損失を計上しており、継続企業の前提に関する重要事象が存在しているが、当社はこれに対し、経営改善計画を策定し、その計画達成を重要な課題として事業展開をするとともに、この計画に対し、県及び沿線自治体等から、経営安定化を図る目的で財政支援を受けている。これにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断している。

なお、当社は今後も地域社会に貢献できる公共交通機関としてその使命を果たすべく邁進していく所存であり、関係各位からも変わらぬ支援をいただけるものと確信している。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 営業成績等の状況の概要

当会計年度における当社の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態および経営成績の状況

当会計年度は、新たな第5次経営健全化計画に基づき、計画の着実な実施を図り、経営の健全化を目指しました。鉄道の基本である「安全・安定輸送の確保」は、最優先事項であり、全社一丸となって取り組むとともに、鉄道事業による増収対策、更には旅行業・販売業による増収施策等を柱に取締役会で承認いただいた平成29年度事業を展開した。

特に今期は、平成29年4月21日のダイヤ改正により、東武鉄道新型特急「リバティ会津」が会津田島駅への直通運転を開始したほか、A I Z Uマウントエクスプレス号の東武日光行きを1往復増便し、首都圏及び日光を訪れる観光客の誘客を図った。

この結果、当会計期間の輸送人員では前会計期間に比べ15,720人増（3.0%）の537,987人となり、運輸収入も前会計期間に比べ51,320千円増（14.0%）の418,312千円となった。

また、東京電力に対する風評被害賠償金は、第30期会計期間中に将来一括補償分として119,094千円が支払われた。これを前受金とし5年（52ヶ月分）の清算としたため、当会計期間には雑収入として23,818千円を計上した。

一方、費用については、動力費において軽油単価の上昇により燃料費の削減が9,597千円増（33.9%）の37,941千円のほか、東武鉄道新型特急の車両使用料、21,040千円が新たに発生したことなどにより244,155千円の経常損失となった。これに対し、公共交通の安定化を図るとの見地から、福島県及び会津地方17市町村から補助金の交付を受けた結果、税引前当期損益は28,524千円の損失となったところである。

なお、当社は、単一事業のため、事業部門の区分はありません。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローが85,419千円（94.5%）増加したこと、投資活動によるキャッシュ・フローが41,198千円（18.0%）の減少であったこと、及び資金の期首残高が前事業年度に比べ138,735千円（73.3%）減少したことにより、前事業年度末に比べ12,117千円（4.2%）減少し、38,502千円となった。

営業活動による資金の増加は175,805千円であり、前事業年度に比べ85,419千円（94.5%）増加した。これは、税引前当期純損失が12,850千円（82.0%）増加したこと、未収金が76,897千円の減少に転じたこと、未払金が2,713千円の減少に転じたこと等によるものである。

投資活動による資金の減少は187,923千円であり、前事業年度に比べ41,198千円（18.0%）減少した。これは有形固定資産の取得による支出が33,808千円（18.0%）減少したこと、定期預金の預入が10,008千円（25.0%）減少したこと等によるものである。

財務活動によるキャッシュ・フローは該当事項がない。

生産、受注及び販売の実績

a．生産実績

該当事項なし

b．受注状況

該当事項なし

c．販売実績

当事業年度における販売実績は次のとおりである。

種 別		単位	実 績	前期比（％）
営業日数		日	365	0.0
営業キロ		キロ	57.4	-
走行キロ		千キロ	639	3.5
旅客人員	定 期	千人	228	0.9
	定期外	"	309	6.1
計		"	537	3.0
旅客収入	定 期	千円	75,198	3.3
	定期外	"	259,707	12.2
計		"	334,906	10.1
運輸雑収入		"	83,405	32.9
旅行業収入		"	5,401	61.0
駅売店収入		"	48,985	22.0
収入合計		"	472,699	15.2

（注）上記金額には消費税等は含まれていない。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりである。なお、文中の将来に関する事項は、当会計年度末現在において当社が判断したものである。

重要な会計方針および見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されている。詳細については、「第5 経理の状況 1 財務諸表等(1)財務諸表 注記事項（重要な会計方針）」に記載のとおりである。

4【経営上の重要な契約等】

項 目	契約の相手方	契約年月日	期 間	契約目的
連絡運輸契約	東日本旅客鉄道株式会社	昭和62年 6 月15日	昭和63年 3 月31日	利用者の利便と増収を図るため
	東武鉄道株式会社	昭和62年 7 月 1 日	昭和63年 7 月15日	
	野岩鉄道株式会社	昭和62年 7 月 1 日	昭和63年 7 月15日	
直通運転契約	東日本旅客鉄道株式会社	昭和62年 7 月15日	昭和63年 3 月31日	同 上
	東武鉄道株式会社	平成 2 年 6 月29日	平成 3 年 3 月31日	
		平成17年 2 月25日	平成17年 3 月31日	
		平成29年4月21日	平成30年 3 月31日	
	野岩鉄道株式会社	平成 2 年 6 月29日	平成 3 年 3 月31日	
		平成17年 2 月25日	平成17年 3 月31日	
		平成29年4月21日	平成30年 3 月31日	
駅共同使用契約	東日本旅客鉄道株式会社	昭和62年 7 月15日	昭和63年 3 月31日	西若松駅の共同使用
	野岩鉄道株式会社	平成15年 3 月19日	平成15年 3 月31日	会津高原尾瀬口駅の共同使用
社員出向協定	東日本旅客鉄道株式会社	平成21年12月1日	平成26年11月30日	営業に必要な即戦力の人員確保のため

（注）契約期間満了のものについては、両者の合意により引き続き有効なものとなっている。

5【研究開発活動】

該当事項なし

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社は、開業当初より老朽化した施設が多く、年次計画に基づき軌道強化等の工事を推進してきたが、平成29年度は、レール交換、P Cマクラギ交換、列車無線のデジタル化、等の工事を実施した。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は以下のとおりである。

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類 別セグ メントの 名称	設備の 内 容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建 物 及 び 構築物	車 両	機械 装置	土地 (面積㎡)	その他	合計	
車両基地 (南会津郡南会津町)	旅客 運輸	車 両 設 備	5,739	49,107	301	—	989	56,138	5
駅 舎 (南会津郡南会津町)	旅客 運輸	停車場 設 備	45,448	—	—	—	1,875	47,323	16 〔1〕
変電所 (南会津郡南会津町)	旅客 運輸	変 電 設 備	3,341	—	5,322	5,759 (1,049)	—	14,423	—
線路・電路 (会津若松市～南会津郡 南会津町)	旅客 運輸	線路・ 電 路 設 備	178,279	—	—	2,275 (203)	425	180,980	—
本 社 (会津若松市)	旅客 運輸	その他 設 備	24,441	—	—	—	6,590	31,031	46 〔6〕

- (注) 1. 金額には消費税等は含まれていない。
2. 現在休止中の主要な設備はない。
3. 従業員数の〔 〕は、臨時従業員数を外書している。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社は、地方鉄道事業の単一事業を行っており、その施設等は老朽化している。その中でも安全輸送の観点から、レール交換、P Cマクラギ交換を年次的に計画してきた。

当事業年度後1年間の設備投資計画(新設・拡充)は、老朽化対策事業としてレール交換及びP Cマクラギ交換などを立ており、主な内容については次のとおりである。

なお、除却等の計画については、経常的な除却を除き、重要な設備の除却・売却の計画はない。

事業の種類	平成30年3月末 計画金額(千円)	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
レール交換工事	29,230	40N及び50PSレールを50Nレールに交換しレールの耐久性を向上させるとともに安全性の向上を図る。	国、福島県、沿線3市町の補助金ほか自己資金
P Cマクラギ交換工事	32,490	耐久性向上のため、木製マクラギをP Cマクラギに交換し、保守周期の延伸と保守作業員の削減を図る。	国、福島県、沿線3市町の補助金ほか自己資金
木マクラギ更新工事	32,800	橋・分岐・並マクラギの老朽化に伴い、犬釘の支持力のない著しく不良なマクラギについて交換を行い、安全性の向上を図る。	国、福島県、沿線3市町の補助金ほか自己資金
連動装置(リレー交換)	7,000	連動装置リレーの経年劣化に伴い、リレーの更新を行い安全性の向上を図る。	国、福島県、沿線3市町の補助金ほか自己資金
合 計	101,520	—	—

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数（株）
普通株式	40,000
計	40,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数（株） （平成30年3月31日）	提出日現在発行数（株） （平成30年6月29日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通 株式	30,000	30,000	該当事項なし	-
計	30,000	30,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし

【ライツプランの内容】

該当事項なし

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付転換社債券等の行使状況等】

該当事項なし

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （株）	発行済株式 総数残高 （株）	資本金 増減額 （千円）	資本金 残高 （千円）	資本準備金 増減額 （千円）	資本準備 金残高 （千円）
平成2年8月1日（注）	2,500	30,000	125,000	1,500,000	-	-

（注）第三者割当：発行株数2,500株、発行価格50,000円、資本組入額50,000円

主な割当先 福島県、第三者等

(5)【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況								単元未満株 式の状況 （株）
	政府及び地 方公共団体	金融 機関	金融商品 取引業者	その他 の法人	外国法人等		個 人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 （人）	18	9	-	220	-	-	208	455	-
所有株式数 （株）	15,000	4,755	-	7,292	-	-	2,953	30,000	-
所有株式数 の割合 （％）	50.00	15.85	-	24.31	-	-	9.84	100.00	-

(6)【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)総 数に対する所有株 式数の割合(%)
福島県	福島県福島市杉妻町2番16号	9,500	31.67
会津若松市	福島県会津若松市東栄町3番46号	2,698	8.99
株式会社日本政策投資銀行	宮城県仙台市青葉区中央一丁目6番35号	1,600	5.33
南会津町	福島県南会津郡南会津町田島字後原甲3531-1	1,544	5.15
株式会社東邦銀行	福島県福島市大町3番25号	1,375	4.58
下郷町	福島県南会津郡下郷町塩生字大石1000	881	2.94
東武鉄道株式会社	東京都墨田区押上一丁目1番2号	800	2.67
会津信用金庫	福島県会津若松市馬場町2番16号	600	2.00
東北電力株式会社	宮城県仙台市青葉区本町一丁目7番1号	600	2.00
株式会社福島銀行	福島県福島市万世町2番5号	500	1.67
株式会社大東銀行	福島県郡山市中町19番1号	500	1.67
計	—	20,598	68.66

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,000	30,000	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	30,000	-	-
総株主の議決権	-	30,000	-

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項なし

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項なし

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項なし

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項なし

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項なし

3【配当政策】

当社は、創業以来第3セクター鉄道として終始厳しい経営環境の中で、誘客増収及び経費節減に努め収支改善を図り、株主への利益還元のため営業努力を重ねてまいりました。

そのような中、利益配分につきましては、年1回の定時株主総会決議により、業績に対応した期末配当を行なうことを基本としつつ、企業体質の充実強化と事業展開に備えるための内部留保の確保などを勘案して決定することを基本的な考え方としております。

しかしながら、構造的問題等諸般の事情もあり、誠に遺憾ながら、当期も無配当を予定しております。

今後は早期配当実現を重要課題として、会社を挙げて事業推進に邁進する所存であります。

4【株価の推移】

当社の株式は、非上場株式であるため、該当事項はない。

5【役員の状況】

男性17名 女性0名（役員のうち女性の比率0％）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (株)
取締役 会 長		内堀雅雄	昭和39年3月26日生	昭和61年3月 東京大学経済学部卒業 昭和61年4月 自治省採用 平成14年4月 福島県生活環境部長 平成16年4月 同 企画調整部長 平成18年12月 同 副知事 平成19年6月 当社代表取締役副社長 平成26年11月 福島県知事（現） 平成27年6月 当社取締役会長（現）	(注)2	-
取締役 社 長	代 表 取締役	大石 直	昭和20年2月6日生	昭和40年3月 中央鉄道学園大学課程土木科卒業 平成3年11月 東日本旅客鉄道(株) 総合企画本部投資計画部調査役 平成7年6月 同 東北地域本社 企画調整部長 平成9年6月 同 仙台駅長 平成13年6月 東北総合サービス(株) 代表取締役社長 平成20年6月 当社代表取締役社長（現）	(注)2	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所 有 株式数 (株)
取締役 副社長	代 表 取締役	鈴木正晃	昭和31年 1 月27日生	昭和53年 3 月 東北大学法学部卒業 昭和53年 4 月 福島県職員採用 平成20年 4 月 福島県総務部次長 平成21年 4 月 同 病院局長 平成23年 6 月 同 病院局長併原子力損害対策担当理事 平成23年 9 月 同 原子力損害対策担当理事 平成24年 4 月 同 総務部長 平成27年 1 月 同 副知事（現） 平成27年 6 月 当社代表取締役副社長（現）	(注)2	-
取締役 副社長		室井照平	昭和30年 9 月28日生	昭和53年 6 月 東北大学経済学部卒業 昭和53年 7 月 ㈱北海道拓殖銀行 仙台支店 昭和55年 7 月 自営業（室井商店） 平成11年 4 月 会津若松市議会議員 平成18年11月 福島県議会議員 平成23年 8 月 会津若松市長（現） 平成23年10月 当社取締役副社長（現）	(注)2	-
常務 取締役		五十嵐司也	昭和24年 9 月 7 日生	昭和48年 3 月 専修大学経済学部卒業 昭和48年 4 月 会津若松市採用 平成 6 年 4 月 同 商工観光部商工課長 平成12年 4 月 同 企画政策部企画副参事 平成13年 4 月 同 産業振興部長 平成14年 4 月 同 企画政策部長 平成15年 7 月 同 参事・合併推進担当 平成16年 1 月 同 合併対策室長 平成18年 4 月 同 水道事業管理者 平成25年 6 月 当社常務取締役（現）	(注)2	-
取締役		大宅宗吉	昭和24年 3 月 1 0日生	昭和42年 3 月 福島県立南会津高等学校卒業 平成16年 4 月 伊南村議会議員 平成18年 3 月 南会津町議会議員（在任特別） 平成19年 5 月 南会津町議会議員 平成22年 4 月 南会津町長（現） 平成22年 6 月 当社取締役（現）	(注)2	-
取締役		星 學	昭和22年 1 月12日生	昭和40年 3 月 日本大学東北工業高等学校卒業 昭和11年 7 月 下郷町建設課長 平成15年10月 下郷町助役 平成19年 4 月 下郷町副町長 平成25年10月 下郷町長（現） 平成26年 6 月 当社取締役（現）	(注)2	-
取締役		星 光祥	昭和25年11月 7 日生	昭和 年 月 亜細亜大学中退 平成 8 年10月 檜枝岐村産業建設課長 平成19年 4 月 檜枝岐村総務課長 平成19年 5 月 檜枝岐村長（現） 平成29年 5 月 南会津地方町村会長（現） 平成29年 6 月 当社取締役（現）	(注)2	-
取締役		齋藤 文英	昭和27年 1 月20日生	昭和47年 3 月 専修大学北海道短期大学校卒業 平成 8 年 4 月 会津坂下町議会議員 平成14年 4 月 会津坂下町議会議員 平成25年 6 月 会津坂下町長（現） 平成29年 4 月 両沼地方町村会会長（現） 平成29年 6 月 当社取締役（現）	(注)2	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所 有 株式数 (株)
取締役		前後 公	昭和16年10月 1 日生	昭和35年 3 月 日本大学東北工業高校卒業 平成 4 年 4 月 猪苗代町商工観光課長 平成 7 年10月 猪苗代町議会議事局長 平成23年 6 月 猪苗代町長 (現) 平成29年 5 月 会津耶麻町村会会長 (現) 平成29年 6 月 当社取締役 (現)	(注)2	-
取締役		佐藤俊材	昭和48年 5 月22日生	平成10年 3 月 千葉大学法経学部卒業 平成14年10月 公認会計士 2 次試験合格 平成14年10月 あずさ監査法人入社 平成16年 2 月 (株)産業再生機構出向 平成19年 7 月 (株)経営共創基盤入社 平成25年 8 月 (株)みちのりホールディングス出向 平成25年 8 月 会津乗合自動車(株)常務取締役 平成27年10月 同 代表取締役社長 (現) 平成28年 6 月 当社取締役 (現)	(注)2	-
取締役		澁川恵男	昭和22年 2 月11日生	昭和 年 月 日本大学商学部経営学科卒業 昭和57年 9 月 (有)渋川問屋代表取締役 平成13年 5 月 七日町通りまちなみ協議会会長 平成14年12月 (株)まちづくり会津代表取締役 平成25年 4 月 会津若松市観光公社理事長 平成28年11月 会津若松商工会議所会頭 (現) 平成29年 6 月 当社取締役 (現)	(注)2	-
取締役		関口幸一	昭和30年12月22日生	昭和53年 3 月 東京大学法学部卒業 平成20年 7 月 国土交通省航空局次長 平成21年 7 月 同 総合政策局次長 平成22年 8 月 同 鉄道局次長 平成23年 8 月 気象庁次長 平成25年 5 月 一般社団法人日本民営鉄道協会常務理事 平成26年 9 月 東武鉄道株式会社経営企画部顧問 平成27年 6 月 同 取締役鉄道事業本部副本部長 (現) 平成29年 6 月 当社取締役 (現)	(注)2	-
取締役		大島幸一	昭和37年12月1日生	昭和60年 3 月 福島大学経済学部卒業 昭和60年 4 月 福島県採用 平成23年 6 月 同 総務部人事総室行政経営課長 平成26年 4 月 同 生活環境部次長 平成28年 4 月 同 原子力損害対策担当理事 平成30年 4 月 同 生活環境部長 (現) 平成30年 6 月 当社取締役 (現)	(注)3	-
取締役		大橋裕一	昭和32年12月16日生	昭和51年 3 月 福島県立喜多方工業高等学校卒業 昭和51年 4 月 日本国有鉄道新潟管理局採用 昭和62年 4 月 東日本旅客鉄道(株)新幹線運行本部 平成11年 2 月 同 仙台支社総務部安全管理 G 副課長 平成22年 7 月 同 仙台支社社会津若松駅安全担当助役 平成24年12月 会津鉄道(株)出向 運輸部次長 平成25年 6 月 同 運輸部長兼安全統括管理者 平成29年12月 東日本旅客鉄道(株)退職 平成30年 1 月 当社運輸部長兼安全統括管理者 (現) 平成30年 6 月 当社取締役 (現)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所 有 株式数 (株)
監査役	常 勤	二瓶 勝	昭和22年 8 月 4 日生	昭和46年 3 月 日本大学法学部卒業 平成14年 4 月 会津若松地方広域市町村圏整備組合 事務局次長 平成19年 4 月 同 消防本部消防正監消防長 平成20年 6 月 当社監査役(現)	(注)4	-
監査役	非常勤	田崎貞夫	昭和27年 1 月10日生	昭和49年 3 月 日本大学法学部卒業 平成12年 4 月 会津若松市中心市街地活性化推進室長 平成21年 4 月 同 水道部長 平成23年 4 月 同 会計管理者 平成24年 6 月 当社監査役(現)	(注)4	-
監査役	非常勤	佐藤孔一	昭和12年 3 月 7 日生	昭和30年 3 月 福島県立若松商業高等学校卒業 昭和38年 4 月 下郷町役場勤務 昭和60年 4 月 同 住民課長 平成 5 年 4 月 同 企画観光課長 平成16年 4 月 下郷町議会議員 平成18年 3 月 同 議会副議長 平成24年 4 月 同 議会議長 平成28年 6 月 当社監査役(現)	(注)4	-
監査役	非常勤	遠藤忠一	昭和23年 1 月26日生	昭和41年 3 月 福島県立喜多方高等学校卒業 平成 3 年 4 月 喜多方市議会議員 平成 7 年 4 月 福島県議会議員 平成19年 5 月 福島県議会議長 平成30年 2 月 喜多方市長(現) 平成30年 6 月 当社監査役(現)	(注)5	-
計						2

(注)1 監査役 二瓶勝、田崎貞夫、佐藤孔一、遠藤忠一は会社法第2条第16号に定める「社外監査役」である。

- 2 平成29年 6 月から 2 年間
- 3 平成30年 6 月から 1 年間
- 4 平成28年 6 月から 4 年間
- 5 平成30年 6 月から 2 年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダー（利害関係者）から信頼される企業であるために、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要な課題の一つと位置付けている。

具体的には、経営の健全性、効率性及び透明性を高める経営の意思決定、情報開示等の適切な体制を整備するとともに必要な施策を実施している。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

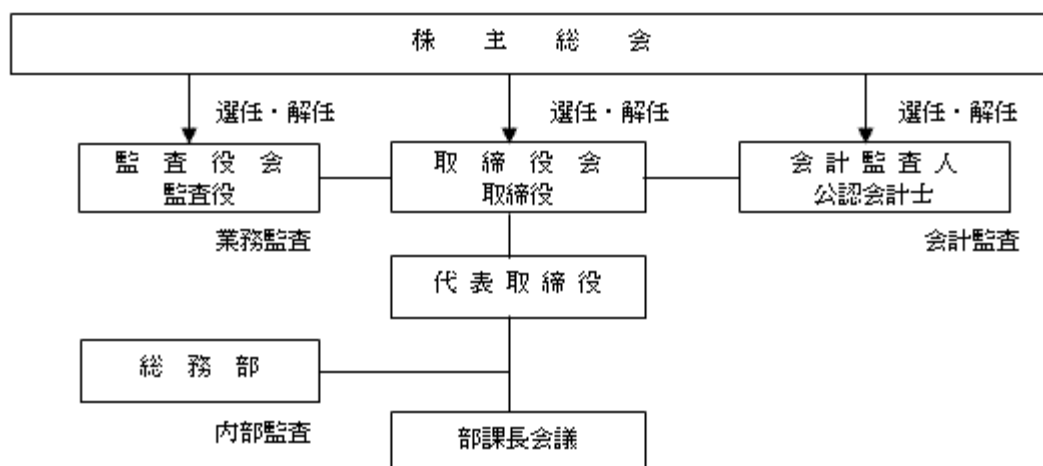
a 会社の機関の内容及び内部統制システムの状況

当社の取締役は20名以内と定款で定めており、現時点は15名で構成されている。当社は定期的に取り締役会を開催し、重要な情報伝達を確実に行う体制を整備している。また、当社は監査役制度を採用しており、監査役会は監査役4名（うち4名社外監査役）で構成され、定期的に監査役会を開催している。各監査役は会社法第383条の1に基づき取締役会に出席し、取締役の監督と共に適宜、提言・助言を行い、業務執行状況について法令及び定款に違反していないかの確認を行っている。

内部統制システムについては、当社はコーポレート・ガバナンスの強化の一環として、内部統制システムの整備を進めており、経理関係規程類の整備及び情報管理の徹底を行い、明確なルールに基づき業務を遂行している。

弁護士・会計監査人等その他第三者の状況については、重要な法務的課題及びコンプライアンスに係る事象は、外部の弁護士に相談し、必要な検討を実施している。また、会計監査人とは、通常の会計監査を受けると共に、ディスクロージャーの速報性と正確性を確保する観点から、重要な会計的課題について随時相談し検討を実施している。

以上を図表にすると次のようになる。



b 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査制度については、現在明確な組織体制が整備されていないが、今後内部監査制度の整備を図り、監査役監査・会計監査の相互連携により監査体制の充実に努める予定である。

c 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、高野宏之氏（継続監査年数15年）であり、補助者はその他1名で構成されている。なお、監査意見の審査については、外部の独立した公認会計士が担当しており、監査意見の表明に先立って審査を受けることにより、監査意見が監査基準等に準拠して適切に形成されていることを確認している。

d 会社と社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本関係又は取引関係その他の利害関係の概要

当社の社外取締役は12名、社外監査役は4名であります。選任に関して独立性に関する方針はありませんが、社外取締役のうち、内堀雅雄氏、鈴木正晃氏、室井照平氏、大宅宗吉氏、星學氏、星光祥氏、斎藤文英氏、前後公氏の8名については、「5役員の状況」の「略歴」に記載のとおり、福島県知事及び沿線の市町村長として、又は要職に就かれ、福島県及び各地域の交通政策をはじめ、県民、地域住民の福祉向上など行政全般を担う方々であり、当社の経営に対する指導・助言及び明確なご意見をいただけるものと判断し、社外取締役として選任しております。なお、当該地方自治体の株式数は合わせて14,664株であります。当社は、福島県及び会津総合開発協議会並びに沿線市町より補助金を受けております。

社外監査役のうち遠藤忠一氏は、喜多方市長であり、二瓶勝氏、田崎貞夫氏、佐藤孔一氏の3名については、市町の要職を努められた方々であり、幅広い見識と豊富な経験を当社の監査に生かしていただくことを期待し、社外監査役として選任しております。

社外取締役及び社外監査役は、取締役会に出席し、独立、客観的な立場から積極的に発言をしております。

リスク管理体制の状況

当社では、鉄道の運行に関し、設備強化や社員教育等を通じ、事故防止、災害防止、輸送障害からの早期復旧など、さまざまなリスク管理を行っている。特に事故・災害等の発生に備え、輸送指令室を24時間体制にしている。

また、平成18年10月1日より「安全管理規程」を定め、社長をトップに、安全統括管理者をはじめ、各管理者を配置し、その時点の問題点等を共有し、その都度対応できる体制を構築している。

上記のほか、JR・東武・野岩との連絡運輸に対応した、事故時対応、駅員・乗務員に対する異常時対応等について合同訓練を行っている。

役員報酬の内容

当期における取締役及び監査役に対する役員報酬は次のとおりである。

社内取締役を支払った報酬	10,800千円
監査役を支払った報酬	1,200千円

(2)【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前事業年度		当事業年度	
	監査証明業務に 基づく報酬 (千円)	非監査証明業務に 基づく報酬 (千円)	監査証明業務に 基づく報酬 (千円)	非監査証明業務に 基づく報酬 (千円)
提出会社	4,000	—	4,000	—
計	4,000	—	4,000	—

【その他重要な報酬の内容】

該当事項なし

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項なし

【監査報酬の決定方針】

会計監査人の報酬等の額については、当社の規模・特性、監査日数等の諸要件を勘案して、適正に決定している。

第5【経理の状況】

1. 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定に基づき、「財務諸表等規則」並びに「鉄道事業会計規則」（昭和62年運輸省令第7号）に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表について、公認会計士高野宏之氏による監査を受けている。

3. 連結財務諸表について

当社は、子会社がないので、連結財務諸表は作成していない。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3 月31日)	当事業年度 (平成30年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	90,623	108,502
未収運賃	10,893	13,072
未収金	152,736	75,838
商品	2,300	3,049
貯蔵品	12,290	10,090
その他の流動資産	7,851	12,136
流動資産合計	276,695	222,689
固定資産		
鉄道事業固定資産		
有形固定資産	1,571,994	1,615,596
減価償却累計額	1,254,759	1,292,441
有形固定資産（純額）	317,234	323,154
無形固定資産	12,927	10,189
鉄道事業固定資産合計	1 330,162	1 333,344
投資その他の資産		
長期前払費用	1,843	1,468
その他の投資等	2,320	2,320
投資その他の資産合計	4,163	3,788
固定資産合計	334,326	337,132
資産合計	611,022	559,822

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3 月31日)	当事業年度 (平成30年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,199	2,195
未払金	218,445	215,732
未払法人税等	6,237	5,994
預り連絡運賃	18,739	26,441
前受金	79,396	55,577
賞与引当金	8,037	7,808
その他の流動負債	5,903	7,615
流動負債合計	338,959	321,365
固定負債		
修繕引当金	39,238	34,213
役員退職慰労引当金	13,188	14,955
固定負債合計	52,426	49,168
負債合計	391,386	370,534
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500,000	1,500,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,280,364	1,310,712
利益剰余金合計	1,280,364	1,310,712
株主資本合計	219,635	189,287
純資産合計	219,635	189,287
負債純資産合計	611,022	559,822

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
鉄道事業営業利益		
営業収益		
旅客運輸収入	304,228	334,906
運輸雑収	62,763	83,405
鉄道事業営業収益合計	366,992	418,312
営業費		
運送費	454,740	540,572
案内宣伝費	58,388	56,994
一般管理費	62,815	65,377
諸税	31,885	31,869
減価償却費	41,612	43,764
鉄道事業営業費合計	649,442	738,578
鉄道事業営業利益	282,450	320,266
その他事業営業利益		
営業収益		
商品売上高	40,139	48,985
旅行業収入	3,354	5,401
その他事業営業収益	43,494	54,387
営業費		
商品売上原価	30,855	37,007
販売費及び一般管理費	7,172	9,431
その他事業営業費	38,028	46,438
その他事業営業利益	5,466	7,948
全事業営業利益	276,983	312,317
営業外収益		
受取利息・割引料	24	7
雑収入	37,566	70,274
営業外収益合計	37,590	70,282
営業外費用		
雑損失	8	2,119
営業外費用合計	8	2,119
経常利益	239,401	244,155
特別利益		
補助金	1 343,751	1 326,987
特別利益合計	343,751	326,987
特別損失		
固定資産圧縮損	120,024	111,356
特別損失合計	120,024	111,356
税引前当期純利益	15,674	28,524
法人税、住民税及び事業税	1,824	1,824
当期純利益	17,498	30,348

【営業費明細表】

		前事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)			当事業年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)		
区分	注記 番号	金額 (千円)			金額 (千円)		
鉄道事業営業費							
1 運送営業費	1						
人件費		239,416			237,562		
経費		215,323			303,009		
計			454,740			540,572	
2 一般管理費	2						
人件費		40,437			41,308		
経費		22,377			24,068		
計			62,815			65,377	
3 案内宣伝費			58,388			56,994	
4 諸税			31,885			31,869	
5 減価償却費			41,612			43,764	
鉄道事業営業費合計				649,442			738,578
その他事業営業費							
1 売上原価			30,855			37,007	
2 販売費一般管理費	3						
人件費		3,603			3,693		
経費		3,568			5,737		
計			7,172			9,431	
その他事業営業費合計				38,028			46,438
全事業営業費合計				687,470			785,017

(注) 営業費の総額の100分の5を超える主な経費及び引当金繰入額は次のとおりである。

千円

1 鉄道事業 運送営業費	
給料手当	180,806
修繕費	73,939
動力費	47,858
賞与引当金繰入	6,500
修繕引当金繰入	29,250

2 鉄道事業 一般管理費	
賞与引当金繰入	645
役員退職慰労引当金繰入	1,766

3 その他事業 販売費及び一般管理費	
給料手当	2,984

(注) 営業費の総額の100分の5を超える主な経費及び引当金繰入額は次のとおりである。

千円

1 鉄道事業 運送営業費	
給料手当	180,681
修繕費	90,244
動力費	58,212
賞与引当金繰入	6,224
修繕引当金繰入	29,250

賞与引当金繰入	656
役員退職慰労引当金繰入	1,766

給料手当	3,051
------	-------

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
		繰越利益剰余金			
当期首残高	1,500,000	1,262,865	1,262,865	237,134	237,134
当期変動額					
当期純利益		17,498	17,498	17,498	17,498
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	17,498	17,498	17,498	17,498
当期末残高	1,500,000	1,280,364	1,280,364	219,635	219,635

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

(単位：千円)

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
		繰越利益剰余金			
当期首残高	1,500,000	1,280,364	1,280,364	219,635	219,635
当期変動額					
当期純利益		30,348	30,348	30,348	30,348
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	30,348	30,348	30,348	30,348
当期末残高	1,500,000	1,310,712	1,310,712	189,287	189,287

【キャッシュフロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	15,674	28,524
減価償却費	41,237	43,389
賞与引当金の増減額(は減少)	48	228
修繕引当金の増減額(は減少)	750	5,025
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1,766	1,766
受取利息及び受取配当金	24	7
固定資産圧縮損	120,024	111,356
たな卸資産の増減額(は増加)	596	1,451
営業債権の増減額(は増加)	459	2,179
未収入金の増減額(は増加)	68,326	76,897
その他の流動資産の増減額(は増加)	886	4,284
仕入債務の増減額(は減少)	320	3
営業債務の増減額(は減少)	780	7,702
未払金の増減額(は減少)	32,695	2,713
前受金の増減額(は減少)	23,818	23,818
その他の流動負債の増減額(は減少)	1,253	2,086
小計	89,702	177,865
利息及び配当金の受取額	24	7
法人税等の支払額	660	2,067
営業活動によるキャッシュ・フロー	90,386	175,805
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	40,004	70,000
定期預金の払戻による支出	-	40,004
有形固定資産の取得による支出	188,107	154,299
無形固定資産の取得による支出	1,010	3,628
投資活動によるキャッシュ・フロー	229,121	187,923
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	138,734	12,117
現金及び現金同等物の期首残高	199,354	150,619
現金及び現金同等物の期末残高	150,619	138,502

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商 品	最終仕入原価法による原価法
貯蔵品	最終仕入原価法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（付属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）
なお、主な耐用年数は以下のとおりである。

建物及び構築物 5～60年

機械装置及び車両 7～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいている。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする方法によっている。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込み額に基づき計上している。

(2) 修繕引当金

修繕引当金は、鉄道運転規則（昭和62年3月2日運輸省令第15号）第39条の定めるところにより、車両に対して8年ごとに実施される定期検査「全般検査」の費用の引当金である。

繰入額は、過去の実績を基準とした定期検査費用見積額を要検査期間の8年に均等分した金額である。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上している。

4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっている。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 工事負担金等の会計処理

当社は鉄道業における連続立体交差等の高架化工事や踏切道路拡幅工事等を行うにあたり、地方公共団体等により工事費の一部として工事負担金等を受けている。

これらの工事負担金等は、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上している。

なお、損益計算書においては、工事負担金等受入額を特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を工事負担金等圧縮額として、特別損失に計上している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用している。

(貸借対照表関係)

1 鉄道事業固定資産の取得原価から直接減額された工事負担金等による圧縮記帳累計額

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
圧縮記帳額	6,291,200千円	6,401,897千円

(損益計算書関係)

1 補助金の内訳

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
(1) 国土交通省東北運輸局よりの交付額		(1) 国土交通省東北運輸局よりの交付額	
鉄道軌道輸送対策事業費補助金	46,930千円	鉄道軌道輸送対策事業費補助金	35,869千円
(2) 福島県よりの交付額		(2) 福島県よりの交付額	
会津鉄道経営安定化補助金	150,591千円	会津鉄道経営安定化補助金	142,812千円
鉄道軌道輸送対策事業費補助金	48,491千円	鉄道軌道輸送対策事業費補助金	17,934千円
(3) 会津若松市・南会津町・下郷町よりの交付額		(3) 会津若松市・南会津町・下郷町よりの交付額	
会津・野岩鉄道施設整備事業補助金	30,200千円	会津・野岩鉄道施設整備事業補助金	50,200千円
下郷町会津下郷駅改修事業補助金	3,000千円		
(4) 会津総合開発協議会よりの交付額		(4) 会津総合開発協議会よりの交付額	
会津鉄道経営安定化補助金	64,539千円	会津鉄道経営安定化補助金	61,205千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	30,000	-	-	30,000
合 計	30,000	-	-	30,000
自己株式				
——	-	-	-	-
合 計	-	-	-	-

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項なし

3 配当に関する事項

該当事項なし

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	30,000	-	-	30,000
合 計	30,000	-	-	30,000
自己株式				
——	-	-	-	-
合 計	-	-	-	-

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項なし

3. 配当に関する事項

該当事項なし

（キャッシュ・フロー計算書関係）

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	90,623千円	108,502千円
預け入れ期間が3ヶ月を越える定期 預金	40,004千円	70,000千円
取得日から3ヶ月以内に償還期限の 到来する短期投資（有価証券）	—	—
現金及び現金等価物	50,619千円	38,502千円

（リース取引関係）

該当事項なし。

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は資金運用については銀行等金融機関からの借り入れはしていない。また、デリバティブ取引は利用していない。

未収運賃及び預り連絡運賃は、相互乗入れ鉄道事業会社との連絡運賃の精算時に生ずる債権債務であり、2ヶ月以内に決済されるものである。また未収金は、主に県や沿線自治体からの補助金であるが、一部営業債権が含まれており、これについては、顧客の信用リスクに晒されている。これに対しては取引相手ごとに残高を管理し、回収懸念の早期把握や軽減を図っている。

未払金は、全て3ヶ月以内の支払期日である。

２．金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。

前事業年度（平成29年３月31日）

	貸借対照表計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	90,623	90,623	0
(2) 未収運賃	10,893	10,893	0
(3) 未収金	152,736	152,736	0
資産計	254,253	254,253	0
(4) 買掛金	2,199	2,199	0
(5) 未払金	218,445	218,445	0
(6) 預り連絡運賃	18,729	18,729	0
負債計	239,384	239,384	0

当事業年度（平成30年３月31日）

	貸借対照表計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	108,502	108,502	0
(2) 未収運賃	13,072	13,072	0
(3) 未収金	75,838	75,838	0
資産計	197,413	197,413	0
(4) 買掛金	2,195	2,195	0
(5) 未払金	215,732	215,732	0
(6) 預り連絡運賃	26,441	26,441	0
負債計	244,370	244,370	0

（注１）金融商品の時価の算定方法に関する事項

(1) 資産および負債

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

（有価証券関係）

該当事項なし

（デリバティブ取引関係）

該当事項なし

（退職給付関係）

１．採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型の制度として、中小企業退職金共済法に基づく中小企業退職金共済制度に加入しております。

２．確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度10,654千円、当事業年度10,332千円であります。

（ストック・オプション関係）

該当事項なし

（税効果会計関係）

該当事項なし

（企業結合等関係）

該当事項なし

（資産除去債務関係）

該当事項なし

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当社は旅客運輸事業の単一セグメントであるため、記載を省略している。

【関連情報】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、当該事項はない。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はない。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略している。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、当該事項はない。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はない。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はない。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はない。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はない。

（賃貸等不動産関係）

該当事項なし

（持分法損益等）

子会社及び関連会社がないため、記載していない。

【関連当事者情報】

1．関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社と関連当事者との取引

（ア）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	住所	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 （被所有） 割合（％）	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科 目	期末残高 （千円）
主要株主	福島県	福島県 福島市	—	地 方 自治体	（被所有） 直接 31.67％	社会資本 の整備	補助金 の受入	199,082	未収金	48,491
							業務の 受託	5,150	未収金	5,562

当事業年度（自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	住所	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 （被所有） 割合（％）	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科 目	期末残高 （千円）
主要株主	福島県	福島県 福島市	—	地 方 自治体	（被所有） 直接 31.67％	社会資本 の整備	補助金 の受入	168,704	未収金	—
							業務の 受託	8,115	未収金	8,115

（イ） 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前事業年度（自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	住所	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 （被所有） 割合（％）	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科 目	期末残高 （千円）
役員	鈴 木 正 晃	—	—	野岩鉄道株 式会社代表 取締役	なし	—	連絡運賃 等の精算	48,746	預り連 絡運賃	7,835
								16,443	未 収 運 賃	1,482
							駅業務 の受託	3,954	未収金	1,975
							運転業 務委託	24,243	未払金	6,488
							運転業 務受託	20,376	未収金	5,891

（注）１．上記(ア)～(イ)の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には、消費税が含まれる。

当事業年度（自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	住所	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 （被所有） 割合（％）	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科 目	期末残高 （千円）
役員	鈴 木 正 晃	—	—	野岩鉄道株 式会社代表 取締役	なし	—	連絡運賃 等の精算	63,543	預り連 絡運賃	8,710
								15,383	未 収 運 賃	829
							駅業務 の受託	3,965	未収金	2,912
							運転業 務委託	25,289	未払金	7,212
							運転業 務受託	22,318	未収金	5,749

（注）１．上記(ア)～(イ)の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には、消費税が含まれる。

２．取引条件及び取引条件の決定方針等連絡運賃の精算については、一般取引先と同様である。

２．親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当なし

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
1株当たり純資産額	7,321円19銭	1株当たり純資産額	6,309円58銭
1株当たり当期純損失金額	583円29銭	1株当たり当期純損失金額	1,011円60銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2. 1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益又は当期純損失()(千円)	17,498	30,348
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失()(千円)	17,498	30,348
普通株式の期中平均株式数(株)	30,000	30,000

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	219,635	189,287
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	219,635	189,287
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	30,000	30,000

(重要な後発事象)

該当事項なし

【附属明細表】

【有価証券明細表】

該当事項なし

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末 残 高 (千円)	当 期 増加額 (千円)	当 期 減少額 (千円)	当期末 残 高 (千円)	当期末減 価償却累 計額又は 償却累計 額(千円)	当 期 償却額 (千円)	差引当期 末残高 (千円)
有形固定資産							
土地	8,035	—	—	8,035	—	—	8,035
建物	97,222	11,000	10,138 (10,138)	98,084	71,272	2,299	26,811
構築物	850,019	136,392	98,419 (98,419)	887,991	656,511	22,501	231,480
車両	468,569	6,419	2,139 (2,139)	472,849	423,027	10,976	49,821
機械装置	111,597	—	—	111,597	105,972	1,275	5,624
工具・器具・備品	36,550	488	—	37,038	35,657	627	1,381
有形固定資産計	1,571,994	154,299	110,697	1,615,596	1,292,441	37,681	323,154
無形固定資産							
電話加入権	1,684	—	— 658	1,684	—	—	1,684
ソフトウェア	33,008	3,568	(658)	35,918	27,471	5,706	8,446
水道施設利用権	—	60	—	60	2	2	57
無形固定資産計	34,693	3,628	658	37,663	27,473	5,708	10,189
長期前払費用	1,843	—	375	1,468	—	—	1,468
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注)1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりである。

建 物	西若松駅東口トイレ新設工事	11,000千円
構築物	PCマクラギ交換工事	48,830千円
構築物	木マクラギ交換工事	30,066千円
構築物	レール交換工事	29,193千円
構築物	連動装置リレー交換工事	7,476千円
車 両	車内放送案内多言語化工事	3,420千円

2. 当期減少額のうち（ ）内は内書きで、補助金の交付及び工事負担金の受入により取得価額から控除している圧縮記帳額であり、その主なものは次のとおりである。

	補助金
西若松駅東口トイレ新設工事	10,138千円
PCマクラギ交換工事	38,586千円
木マクラギ交換工事	20,567千円
レール交換工事	25,654千円
連動装置リレー交換工事	3,750千円
車内放送案内多言語化工事	1,140千円

【社債明細表】

該当事項なし

【借入金等明細表】

該当事項なし

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	8,037	7,808	8,037	—	7,808
修繕引当金	39,238	29,250	34,275	—	34,213
役員退職慰労引当金	13,188	1,766	—	—	14,955

【資産除去債務明細表】

該当事項なし

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末（平成30年3月31日現在）における主な資産及び負債の内容は次のとおりである。

現金及び預金

区分		金額（千円）
現金		4,997
預金	普通預金	33,504
	定期預金	70,000
	計	103,504
合計		108,502

未収運賃

区分	金額（千円）
東日本旅客鉄道㈱	4,232
東武鉄道㈱	6,212
野岩鉄道㈱	829
その他	1,799
合計	13,072

未収金

区分	金額（千円）
国	46,720
福島県	8,115
野岩鉄道(株)	8,661
会津若松市	2,472
東武鉄道(株)	3,173
その他	6,695
合計	75,838

棚卸資産

商品

区分	金額（千円）
駅売店商品	862
車内販売商品	46
企画商品	2,139
合計	3,049

貯蔵品

区分	金額（千円）
レール等	1,898
車両部品	2,545
電路設備材料	4,156
乗車券帳票	1,489
合計	10,090

買掛金

区分	金額（千円）
(有)緑屋	517
三万石（株）	280
(株)戸田商店	153
県南酒販(株)	124
その他	1,119
合計	2,195

未払金

区分	金額（千円）
マクラギ交換工事	66,582
車両検査工事	50,058
レール交換	37,985
社会保険料	10,867
リレー交換工事	8,100
電車業務委託料	7,212
車両部品代	5,542
その他	29,384
合計	215,732

預り連絡運賃

区分	金額（千円）
東日本旅客鉄道(株)	922
東武鉄道(株)	16,808
野岩鉄道(株)	8,710
合計	26,441

(3)【その他】

該当事項はない。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	1株券、10株券、50株券、100株券、1000株券及び10株券未満の株式数を表示した株券
剰余金の配当の基準日	該当事項なし
1単元の株式数	該当事項なし
株式の名義書換え	
取扱場所	福島県会津若松市材木町一丁目3番20号
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	実費
単元未満株式の買取り	
取扱場所	該当なし
株主名簿管理人	該当なし
取次所	該当なし
買取手数料	該当なし
公告掲載方法	官報並びに福島市内において発行される福島民報及び福島民友新聞
株主に対する特典	なし
株式譲渡の制限	本会社の株式を譲渡するには定款第8条により取締役会の承認を要する。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、法第24条の7第1項に規定する親会社等はない。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出している。

- | | | |
|-------------|------------------------|-------------|
| (1) 有価証券報告書 | (事業年度 自平成28年4月1日 | 平成29年6月29日 |
| 及びその添付書類 | (第30期) 至平成29年3月31日) | 東北財務局長に提出 |
| (2) 半期報告書 | (第32期中 自平成29年4月1日 | 平成29年12月28日 |
| | 至平成29年9月30日) | 東北財務局長に提出 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月26日

会津鉄道株式会社
取締役会 御中

公認会計士高野宏之事務所

公認会計士 高 野 宏 之 印

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている会津鉄道株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第32期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、会津鉄道株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管している。
 - 2．財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。